

第2章 子ども・若者を取り巻く現状と課題

1 現在の子ども・若者の現状

近年、子ども・若者を取り巻く社会環境は、少子高齢化や核家族化の進行によりライフスタイルや価値観のニーズが多様化し、生活環境の変化とともに「食」環境も大きく変化しています。とかく、食の大切さに対する意識が希薄になり健全な食生活が失われつつあります。脂質の過剰摂取、野菜の摂取不足や欠食などによる栄養バランスの偏りなど食生活の乱れにより、生活習慣病の増加といった健康への影響が懸念されています。このような状況の中、次代を担う子どもたち自身が生活習慣病の予防や食に関する理解を深めることが不可欠です。

また、今日の小中学生は、異年齢交流が少なく、放課後に友だちと一緒に遊ぶ時間も少ないために、友人との関わりやコミュニケーション不足が生じ社会性が十分に身に付いているとはいえません。また、家庭環境の乱れから、学校で指導しなければならないことが増えていると思われまます。学習の指導だけでなく、本来、家庭で躱けるべきことまで学校で指導していかなければならないのが現状です。

そのような現状の中、県内の公立小中学校では、暴力行為が急増しています。平成 22 年度には中学生の学校内の暴力行為件数で過去最高を示しており、特に対教師暴力の件数が増えていることがわかります。また、小学生に関しては、平成 18 年度より緩やかに連続増加しており、平成 18 年度から比べると 3 倍以上の数値を示しています。高校生に関しては、横ばい傾向にあり、暴力行為の低年齢化が進んでいることがわかります。

(図表 1) 県内の公立学校における暴力行為の状況 (件)

区 分			平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
小 学 校	生徒間暴力	校内	53	61	140	168	177
		校外	8	15	19	32	37
	対教師暴力	校内	16	19	19	50	55
		校外	0	1	0	0	0
	器物損壊		12	21	33	48	63
	対人暴力	校内	3	1	8	1	3
		校外	10	3	1	5	1
	合 計			102	121	220	304

区 分			平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
中 学 校	生徒間暴力	校内	389	375	411	488	590
		校外	59	64	89	72	86
	対教師暴力	校内	146	90	136	100	176
		校外	2	11	4	4	2
	器物損壊		207	290	169	179	215
	対人暴力	校内	21	9	3	3	6
		校外	25	16	25	23	45
合 計		849	855	837	869	1,120	
高 等 学 校	生徒間暴力	校内	122	130	94	104	104
		校外	13	5	24	14	10
	対教師暴力	校内	16	20	11	19	18
		校外	1	1	0	0	0
	器物損壊		55	53	56	27	29
	対人暴力	校内	4	0	1	2	1
		校外	7	10	8	5	0
合計		218	219	194	171	162	

<静岡県青少年対策本部「しずおかの青少年」平成24年度版より>

近年、面談や相談のために専門機関を利用する子ども・若者や家庭が増えています。例えば富士宮市青少年相談センターで行っている面接での相談区分をみると、適応指導教室、発達障害、学校生活、不登校の順になっています。中でも、適応指導教室においては、相談内容のほとんどが、「友だちとうまくいかない」「友だちとなじめない」「仲間から自分がどのように見られているか不安」「怖い」などであり、学校に登校できずに適応指導教室（通称：ほほえみ教室）に通級して継続相談や学習指導を受ける状況が多いです。このように、富士宮市でも、人間関係を上手に取れないなどの社会性が身につけていない子どもの状況が見られます。

また、家庭児童相談室での相談内容も保育園・幼稚園・学校など集団生活における生活行動上の相談や児童に係る家庭内の人間関係（夫婦・親子・兄弟など）に関する相談がほとんどであり、社会や経済の大きな変動により、家庭養育が社会変化についていけないことから、家庭での養育能力が低下する傾向にあり、今後も児童をめぐる環境は一層、複雑化・多様化の傾向がみられます。

(図表 2) 面接相談の対象者別、相談内容別状況 (件)

順位	区分	小学生	中学生	高校生	教師	保護者	合計	比較%
1	適応指導教室	136	1,539		138	79	1,892	70.36
2	発達障害	48	217		51	64	380	14.13
3	学校生活	14	108	3	3	65	193	7.18
4	不登校	3	31	1	8	53	96	3.57
5	対人関係	1	1		2	9	13	0.48
6	いじめ	2	1		2	6	11	0.41
7	進路適正		2			5	7	0.26
8	非行		1			1	2	0.07
9	その他		4	6	78	7	95	3.53
	合計	204	1,904	10	282	289	2,689	100.00

<富士宮市青少年相談センター平成23年度実績より>

2 子ども・若者の健やかな成長と自立をめぐる課題

生活様式が変わり、核家族化や少子化が進む中、子育て中の保護者にも変化が見られます。子育ての方法がわからない保護者や子育ての悩みを誰にも相談できず孤立してしまう保護者もいます。

そこで、子育て問題に対して家庭、学校、地域の連携による支援が必要です。例えば、子どもの社会性やモラルを育む上で、自然体験・社会体験の機会を意識的に作り出すことも大切です。また、健やかに成長しようとする子ども・若者に深く心の傷を残し自己肯定感が持ちにくくなる児童虐待やDVは、その予防や早期発見が非常に大切です。児童相談体制の充実が必要であると同時に問題解決に向けての関係機関の連携強化が今後の課題となっています。

小中学校の長期欠席者(1年間に連続又は継続して30日以上欠席した児童生徒)の内、理由として最も多いのが不登校です。平成23年度、全国の不登校児童生徒数は、小学生22,622人、中学生94,836人で横ばい傾向です。学年別の不登校児童生徒数では、学年が上がるにつれ増加しており、中学生になると急激に増加しています。富士宮市では、平成23年度の不登校児童生徒は平成24年3月の時点で小学校13人・中学校50人であり、小学校は増加傾向で中学校は減少傾向でした。青少年相談センターの適応指導教室の指導の成果が上がっており、多くの児童生徒が学校復帰しています。

また、平成23年度の中学校3年生の通級生に関しては12名中全員が高等学校へ進学することができています。本年度に関しては平成24年度8月の時点では小学校7人・中学校30人と現在のところ減少傾向にあります。

(図表3) 平成23年度 国・静岡県・富士宮市の不登校児童生徒数

【小学校(人)】

区分		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
合計	国	1,044	1,714	2,737	3,939	5,666	7,522	22,622
	静岡県	47	77	97	144	185	318	868
	富士宮市	1	2	3	1	3	3	13

【中学校(人)】

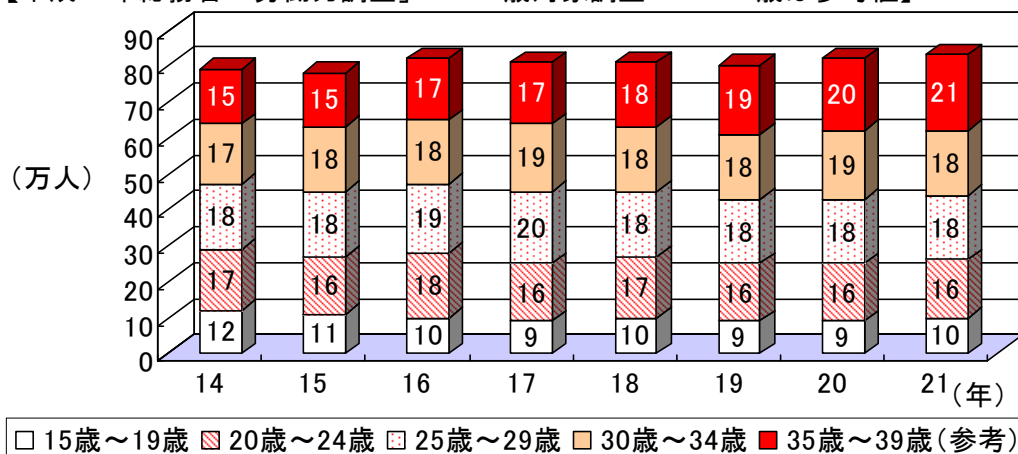
区分		1年	2年	3年	計
合計	国	21,895	33,716	39,225	94,836
	静岡県	645	1,006	1,189	2,840
	富士宮市	9	15	26	50

青少年に関わる大きな問題となっているニート、ひきこもり等は家族の問題として抱え込んでしまうことが多く、その実態はつかみにくいのが現状です。その原因には、教育、医療福祉、就労など多くの問題があり、関係機関による総合的な支援が必要となっています。

平成21年総務省統計局「労働力調査」から若年無業者(いわゆるニート)数の推移をみると15歳から34歳を対象としたニート数は横ばい状態であることがわかります。しかし、働き盛りと言われる35歳から39歳の無業者が緩やかに増加しています。

若年無業者(いわゆるニート)数の推移

【平成21年総務省:「労働力調査」15～34歳対象調査 35～39歳は参考値】



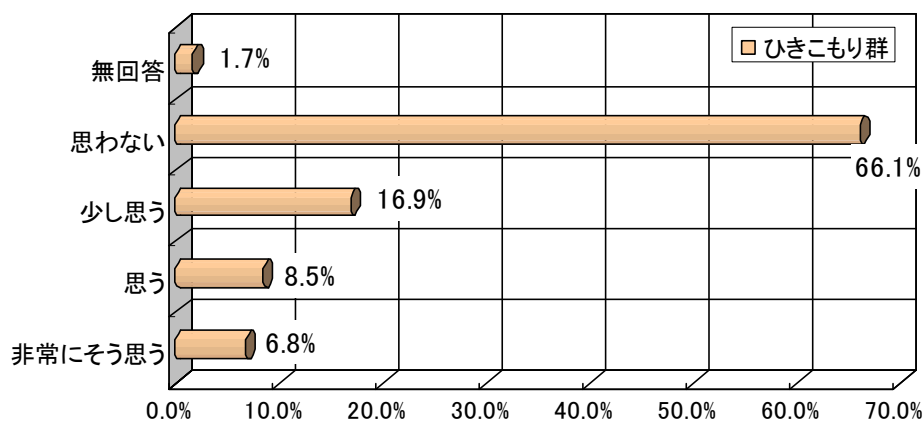
平成22年に内閣府が実施した調査「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)」では、ひきこもりになった若者の3割強の者が10代のうち

にひきこもりとなっており、30代でひきこもりを始めた者も23.7%にも及ぶことが明らかになっています。ひきこもりの状態になったきっかけとして、「職場になじめなかった」「病気」「就職活動がうまくいかなかった」といった理由の順になっており、就労してから、社会に適応できない若者の姿が見られます。

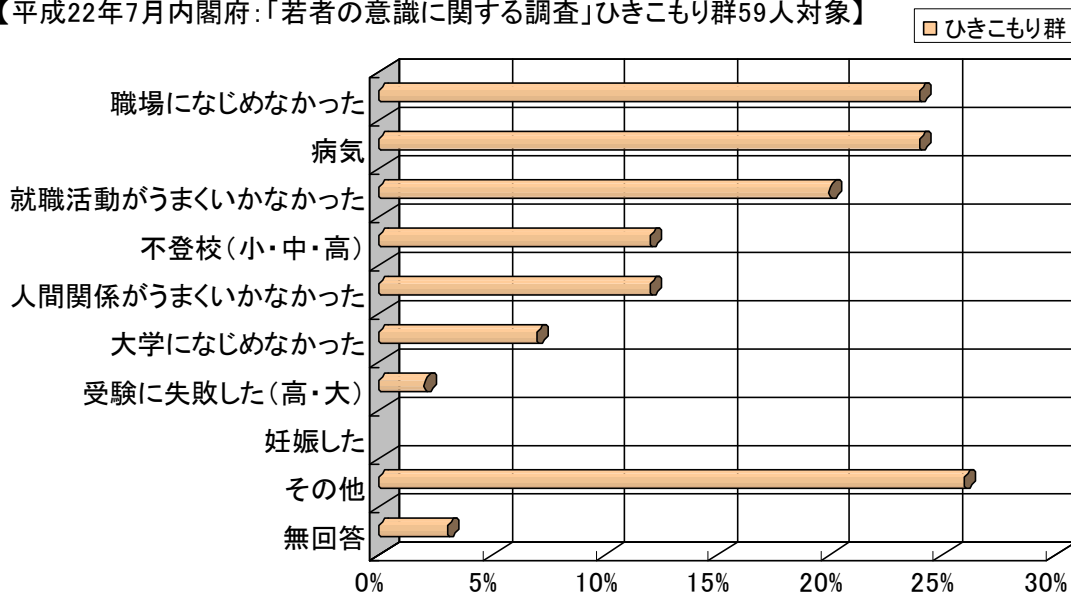
また、ひきこもりの状態について「関係機関に相談したいと思うか」を聞いたところ、66.1%が「思わない」と答えていることから、本人が関係機関との相談を避ける傾向にあることがわかります。ひきこもりの当事者とその家族を支えるためには、「寄り添う」支援が必要となっています。

さまざまな困難を有する青少年が、健やかに成長し、社会的に自立をするためには、地域や関係機関・団体等が連携し、問題発生を防止し、早期発見し対応するなど継続的な支援が必要となります。

現在の状態について、関係機関に相談したいと思いませんか。(択一)
【平成22年7月内閣府:「若者の意識に関する調査」ひきこもり群59人対象】

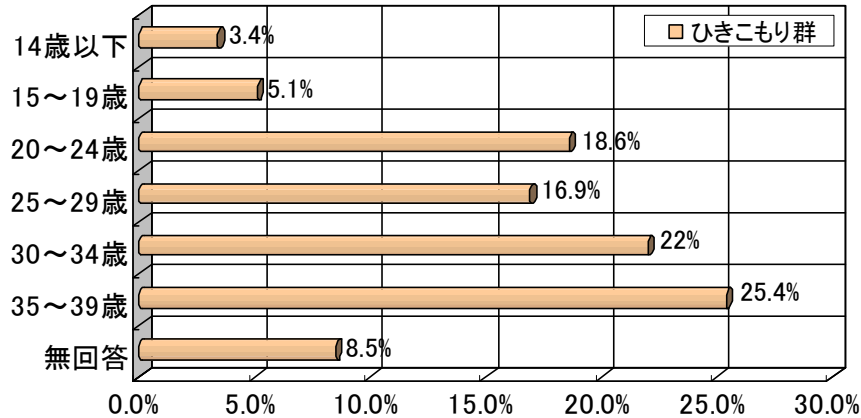


現在の状態になったきっかけは何ですか。(複数回答)
【平成22年7月内閣府:「若者の意識に関する調査」ひきこもり群59人対象】



ひきこもりの状態になった年齢

【平成22年7月内閣府：「若者の意識に関する調査」ひきこもり群59人対象】

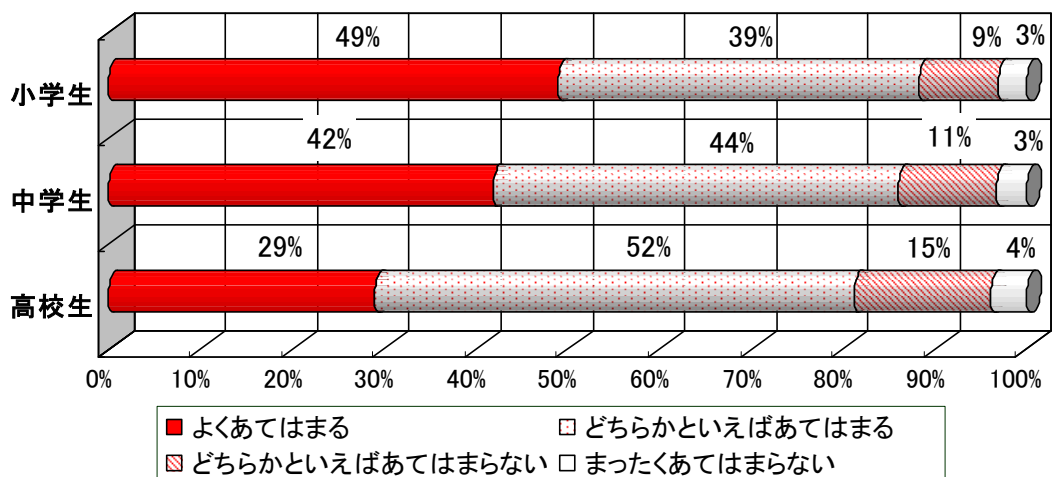


3 アンケートから見る富士宮市子ども・若者の現状と課題

平成24年7月、富士宮市教育委員会社会教育課では「富士宮市青少年の生活実態及び仕事に関する調査」を実施し、市内の小学校5・6年生、中学校1・2・3年生、高校1・2・3年生の3割程度を対象に調査を行いました。その調査結果の分析より、報告書では、次のとおり分析されています。

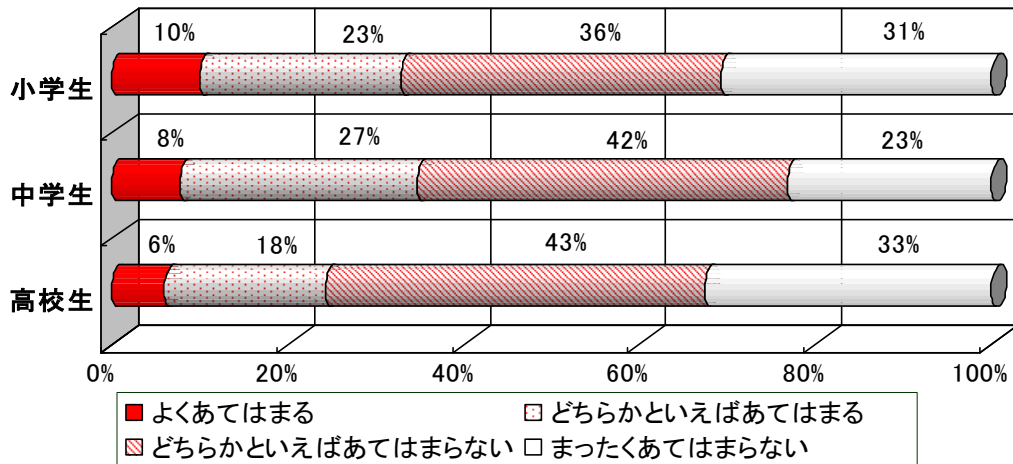
問1ー(1) 給料が少なくても仕事は自分にあった仕事をやるべきだ

給料が少なくても仕事は自分にあった仕事をやるべきだという回答が小学生、中学生、高校生とも80%を超え、全体的に「やりがい」を重視する傾向が強いことがわかります。しかし、その中でも、高校生は「よくあてはまる」が少なく、理想より給料が高いことを望み、現実的な部分が出ています。



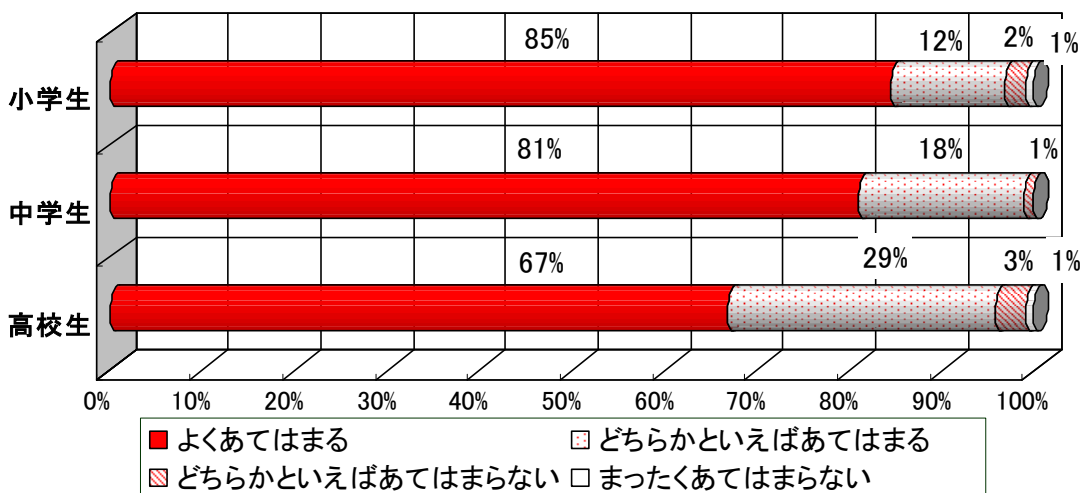
問1－(2) お金がもらえればいいのでアルバイトでもいいと思う

アルバイトでもいいと思う割合は小学生 33%、中学生 35%、高校生 24%であり、保障の無い「今よければ良い」というような感覚を持っている子どもが多いことがわかります。しかし、将来のことを具体的に考える高校生になると、正規社員を希望する割合が高くなり、長期間安定して働ける仕事を重視していることがわかります。



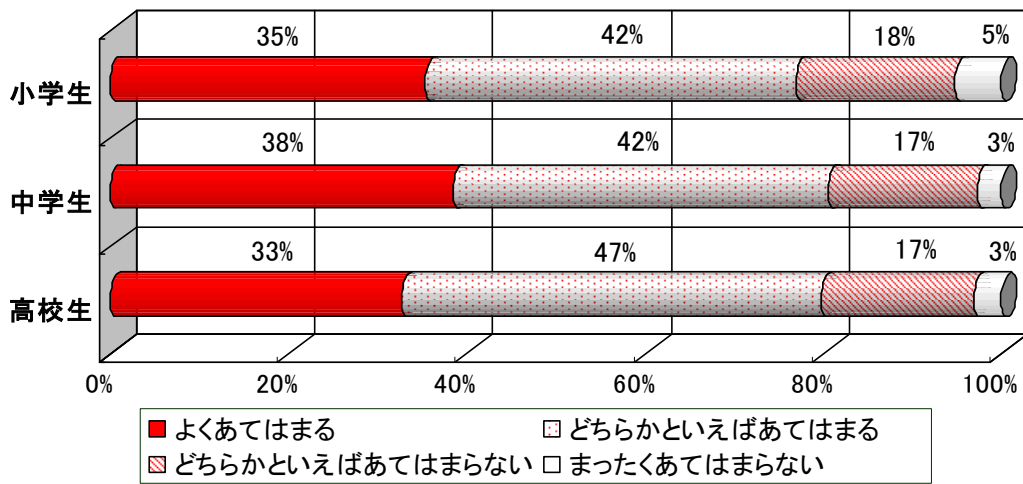
問1－(3) 働いてもらったお金は、少しずつ貯金をしておくべきだ

現代社会の不安定な経済状況は、堅実なもの見方・考え方に影響を及ぼしており、世の中のお金を使わない風潮が広まり消費離れとなり、貯金をする傾向になったと思われます。



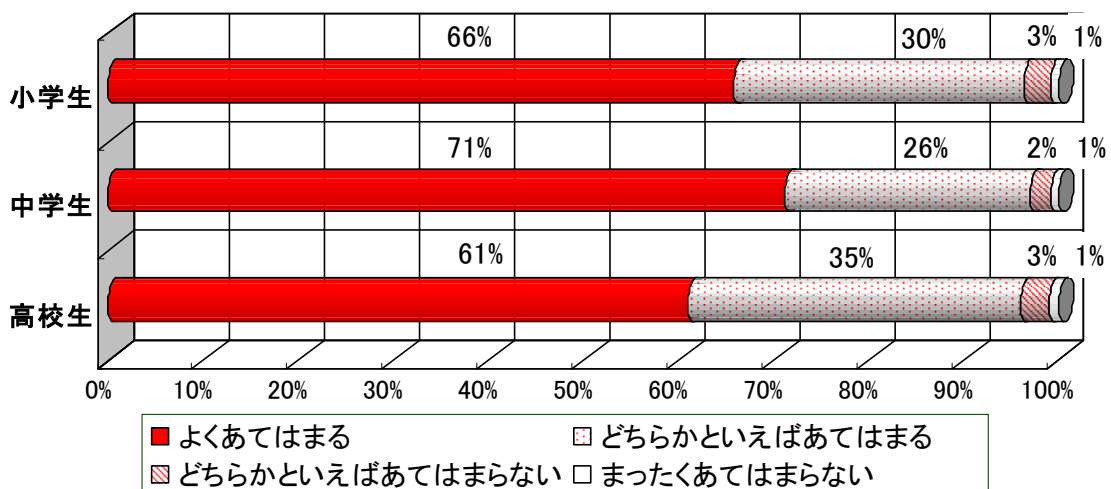
問1－(4) 一度働き始めたら、嫌なことがあっても同じ仕事を続けるべきだ
仕事を続けるということへの意識を聞いた質問です。

(1)の結果からみても自分のやりたい仕事はしたいが、自分のために働く
ということだけでなく、働くということの価値や動機が「家族の期待」や
「就職難であること」など様々な思いの中で考えられていることがわかりま
す。また、その反面多くはないが、児童生徒は仕事を変えるのに抵抗がなく
なっていることもわかります。



問1－(5) 仕事の「やりがい」は、自分で見つけるものである

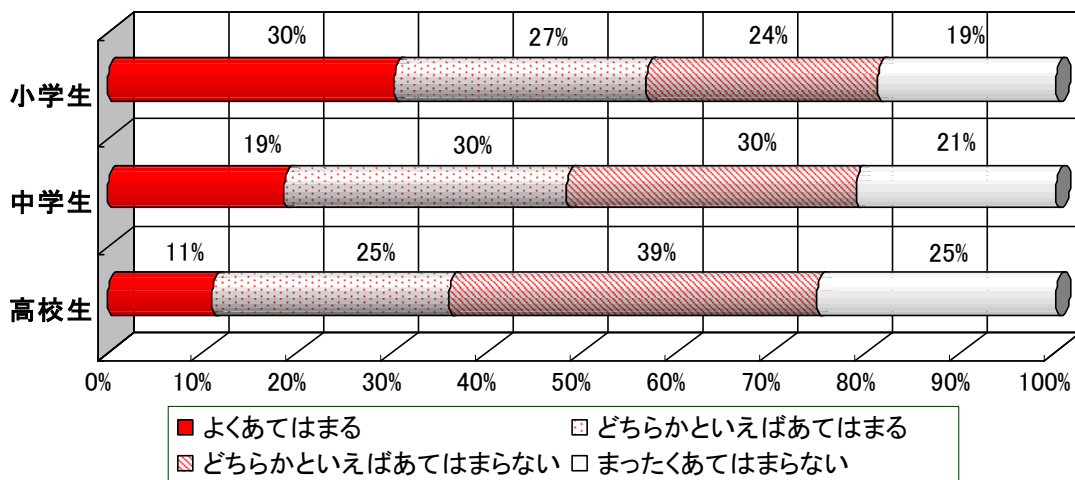
仕事のやりがいを感じる本来の姿である「感謝される喜び」「人の役にたっ
た喜び」「やり遂げた充実感」というようなものが理解できているのではない
かと思われます。理想的な考え方をほとんどの児童生徒が持っていることが
わかります。



問1 - (6) 親のやっている仕事に興味を持っている

親のやっている仕事への興味は小学生、中学生、高校生と年齢が上がるにつれ減少しています。

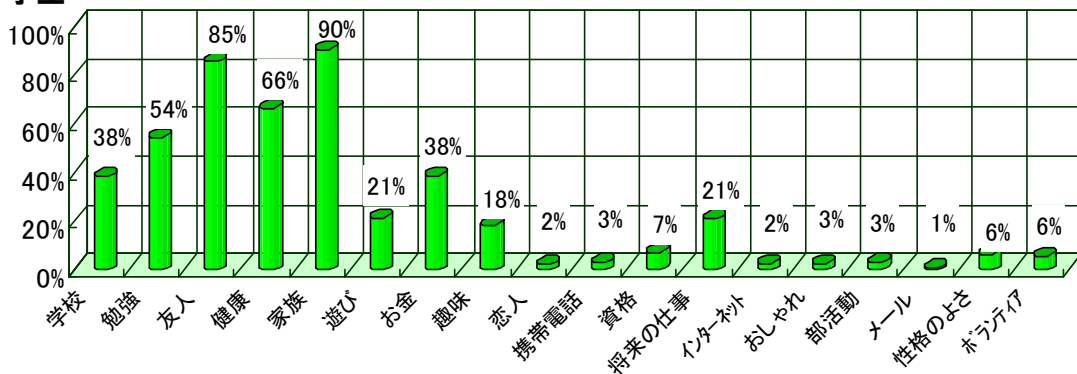
小学生は親との関わりの中で仕事に関して様々な話がなされていると思われます。「親の背中を見て」「親への憧れ」等があり親の仕事にも興味を持っていると思われます。しかし、年齢が上がるにつれ、親子の会話が少なくなり、また、理想と現実を客観的に分析できるようになるため、興味も薄れていくのではないかと考えられます。



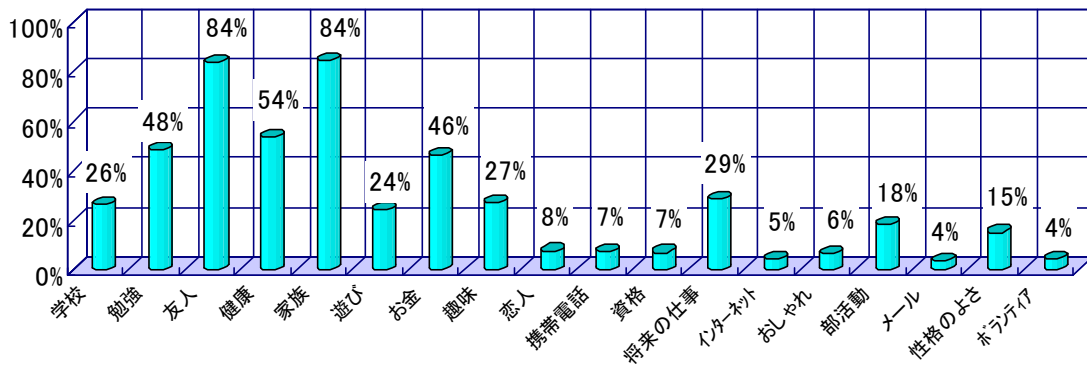
問2 あなたにとって大切なものは何ですか (5つ選択)

大切なものは、小中学生は「家族」「友人」「健康」「勉強」の順。高校生は「友人」「家族」「お金」「健康」と、成長と共に現実に近づいてきています。また、年齢が上がるにつれ、興味が多岐にわたっていくことがわかります。数値的には20%代ですが、どの学年でも「将来の仕事」と回答しています。

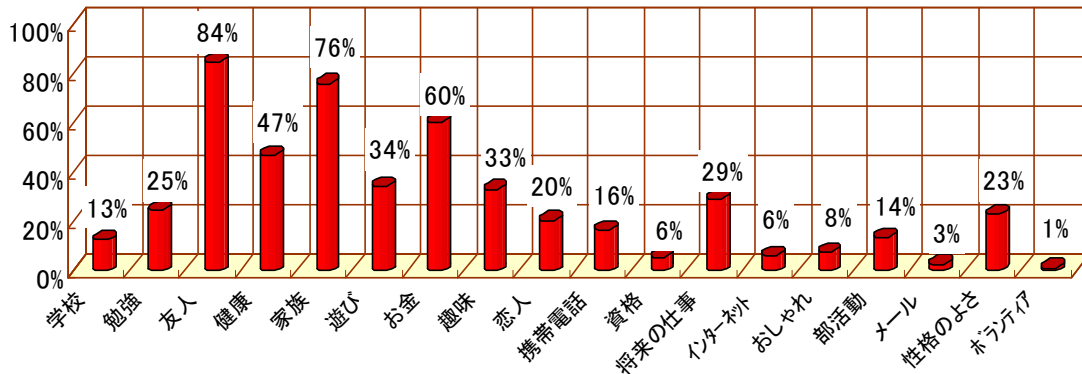
小学生



中学生



高校生

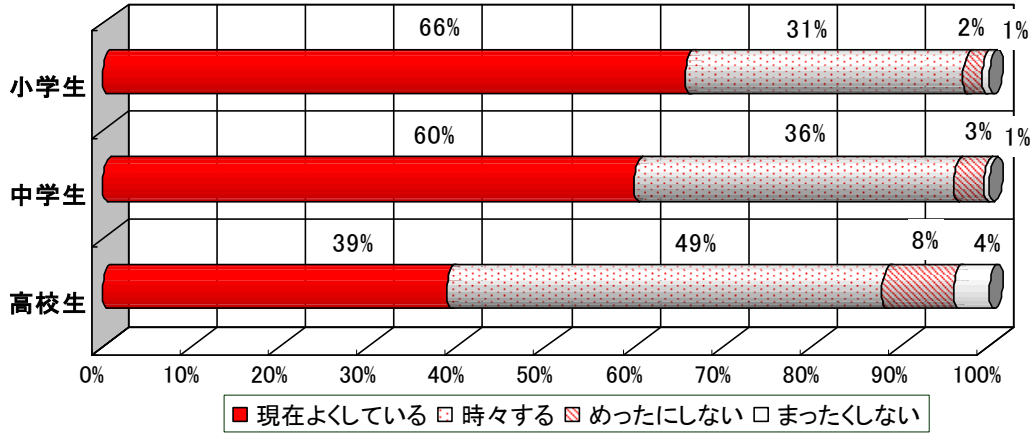


問3 地域や社会の活動に参加していますか

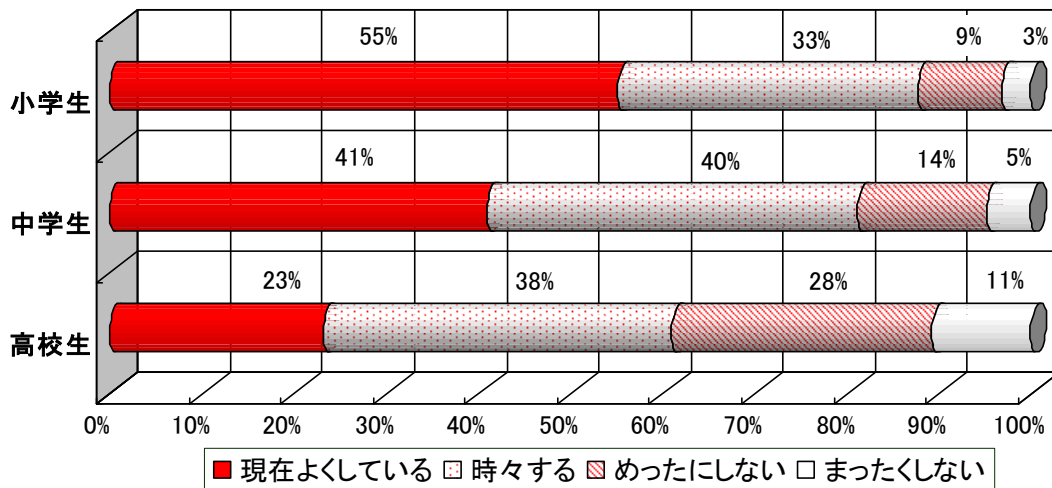
地域の人との挨拶や祭りへの参加などは、年齢が高くなるに従って、参加する割合が少なくなっています。古紙回収や防災訓練などの地域の活動への参加は、中学生は「よく参加している」の割合が高いが、小学生と高校生は低くなっています。これは、中学生は奉仕的な活動の体験を学校全体で取り組んでおり、東日本大震災での中学生の活躍が報道され、地域でも中学生を積極的に様々な行事に参加するように家庭や学校などの機関に依頼している結果だと思われます。

また、スポーツ活動や文化活動への参加は、全体の流れと同じく、「よく参加している」の割合は、小学生、中学生、高校生と年齢が上がるにつれ低くなっています。

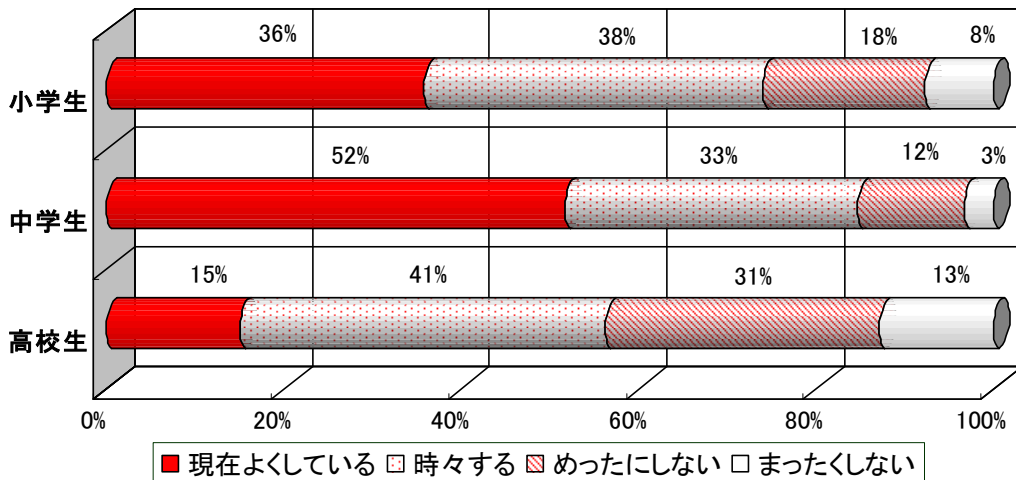
(1) 地域の人との挨拶



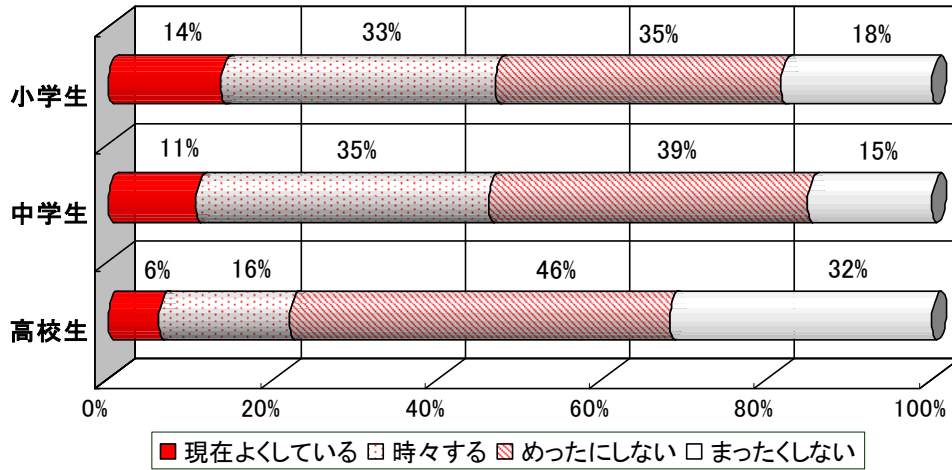
(2) 地域の祭りへの参加



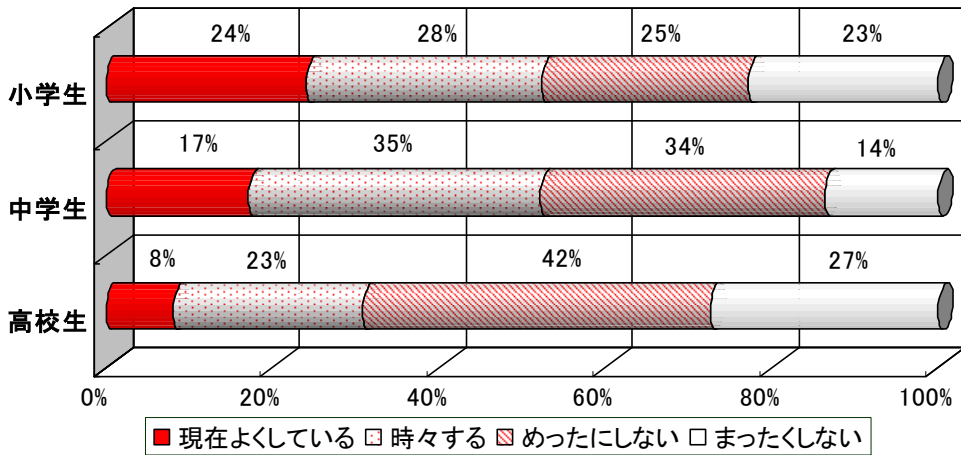
(3) 古紙回収や防災訓練など地域の活動への参加



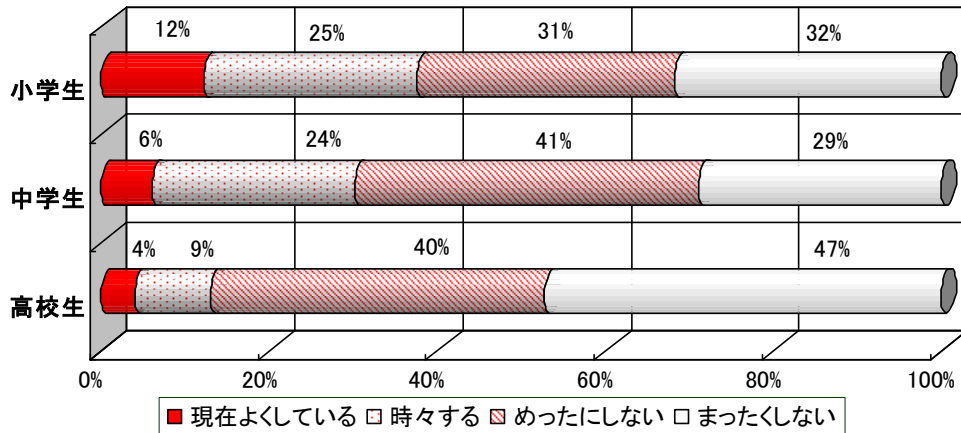
(4) ③以外のボランティア活動



(5) 地域のスポーツ活動や文化活動への参加



(6) 公民館や児童館での催し物への参加

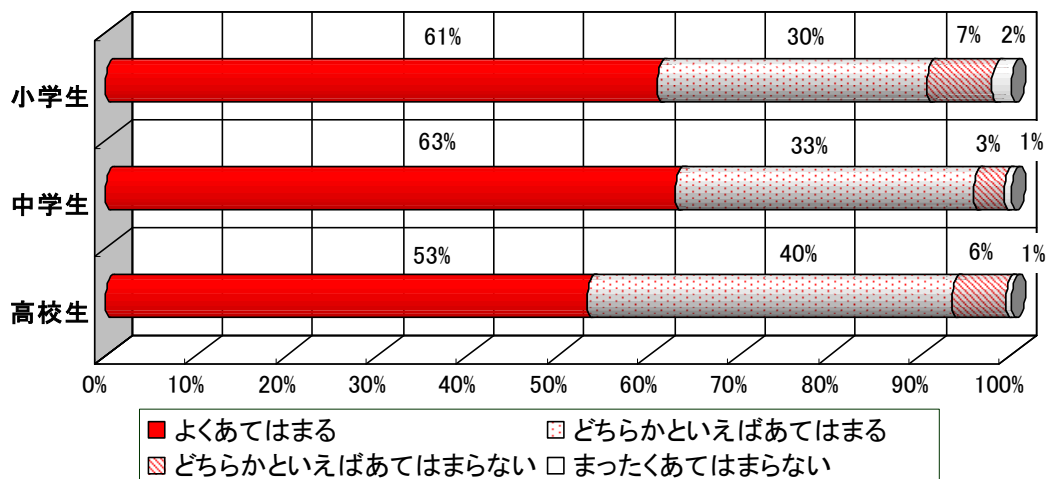


問4 次の各質問に対して、あなたにもっともあてはまる数字に○を付けてください

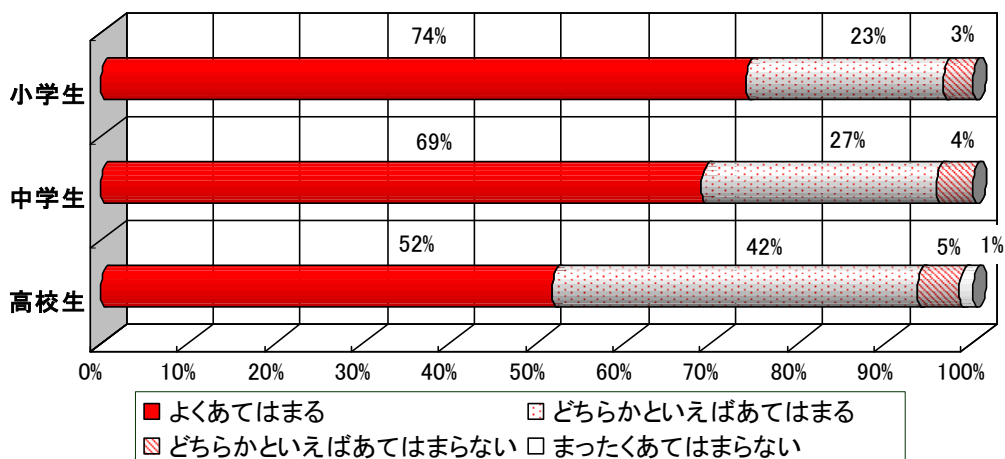
多くの児童生徒が社会問題に目を向け、今の社会には問題があると思っています。自分たちがもっと大人（社会）に主張し、社会に役立つようなことをしたいと思っています。そして順番、きまり、ルール、時間を守って、自発的に手伝いや片付けができ、お年寄りや身体の不自由な人に席をゆずることができます。物事に関して深く考えることもでき、我慢強いと感じています。頑張っていることがあったり、将来の夢を持っていたりする児童生徒も多いようです。

「悩みがある」と答えた割合は、小学生 56%、中学校生 59%、高校生 68%と年齢が上がるにつれ増加していますが、80%以上の児童生徒は毎日が楽しいと感じています。

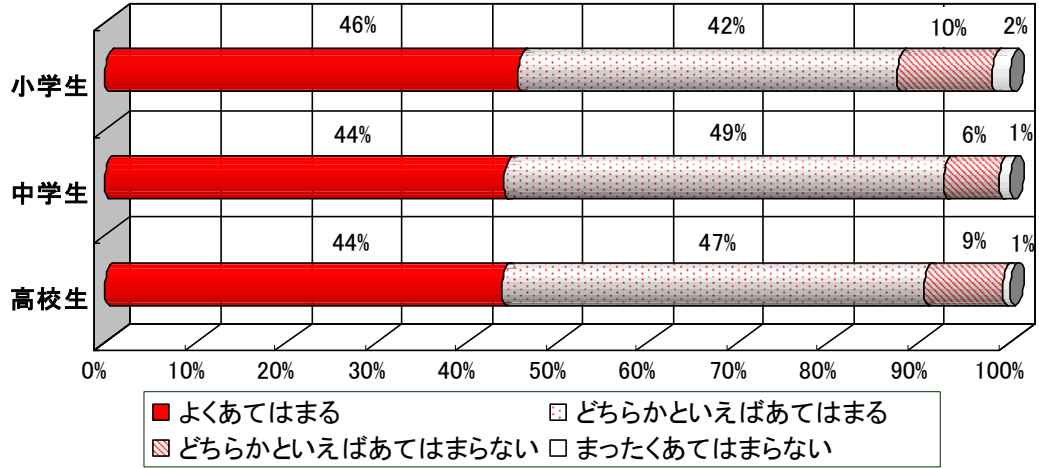
(1) 今の社会には問題があると思う



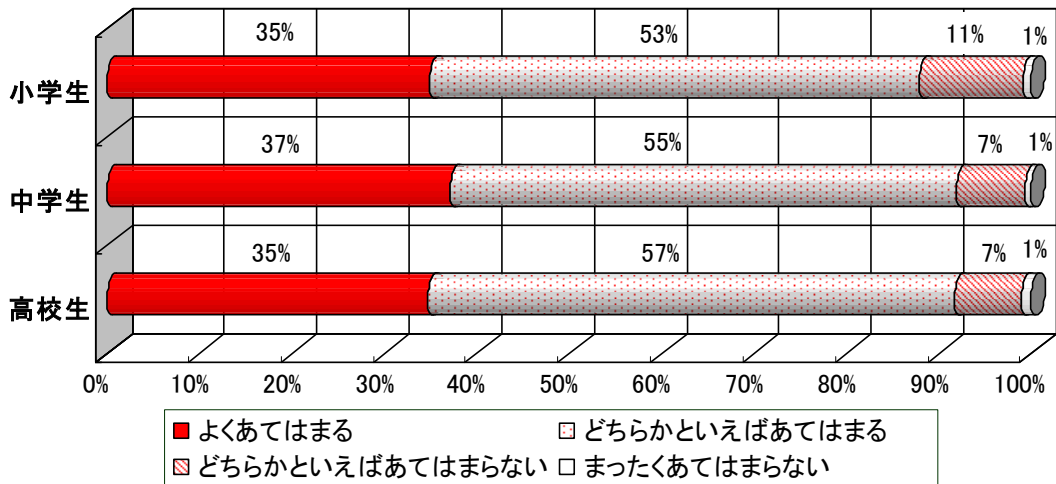
(2) 挨拶をすることができる



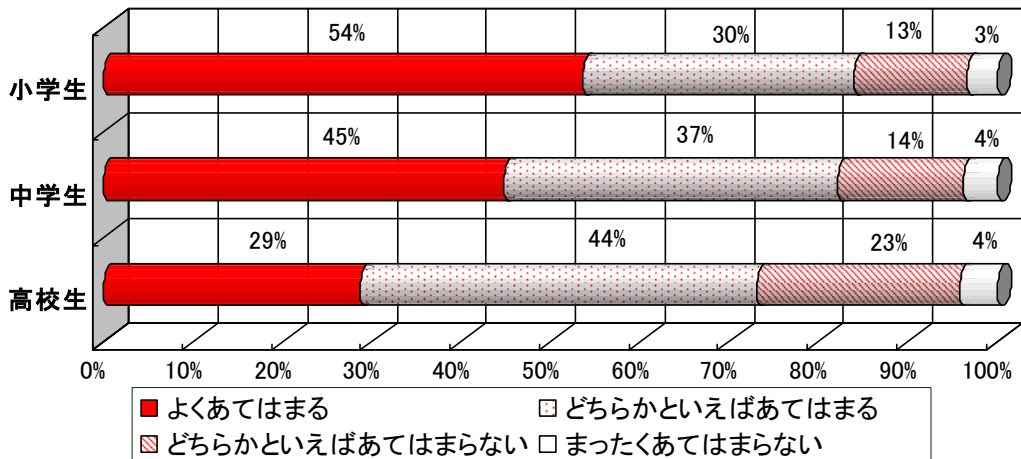
(3) 急いでいても順番を守ることができる



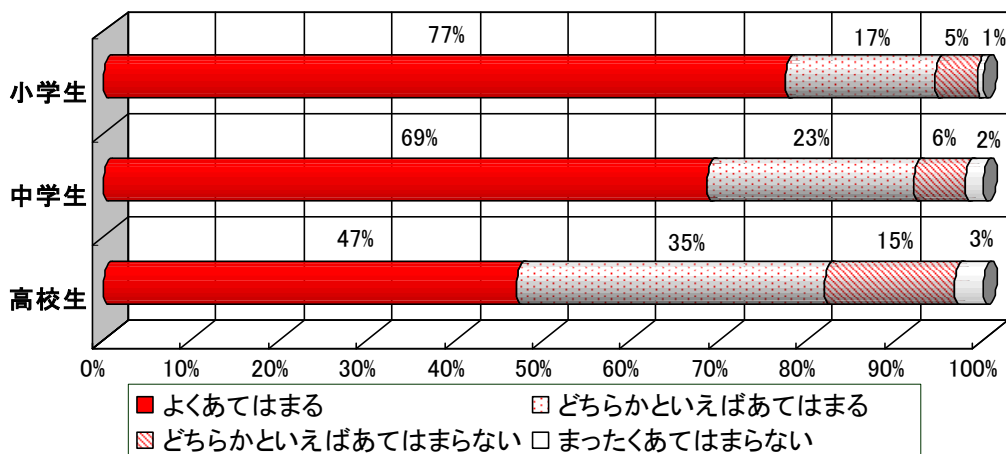
(4) きまりやルールを守って行動できる



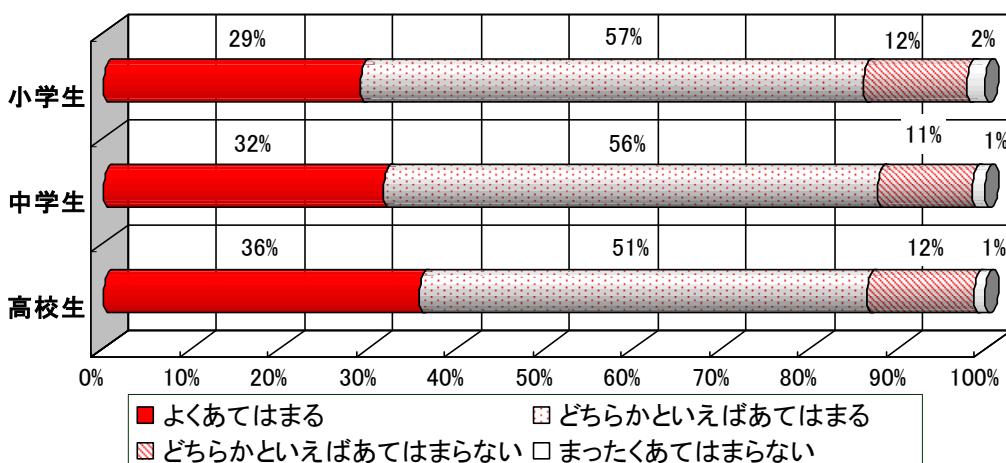
(5) 新聞やテレビ、インターネットなどでニュースをよく見る



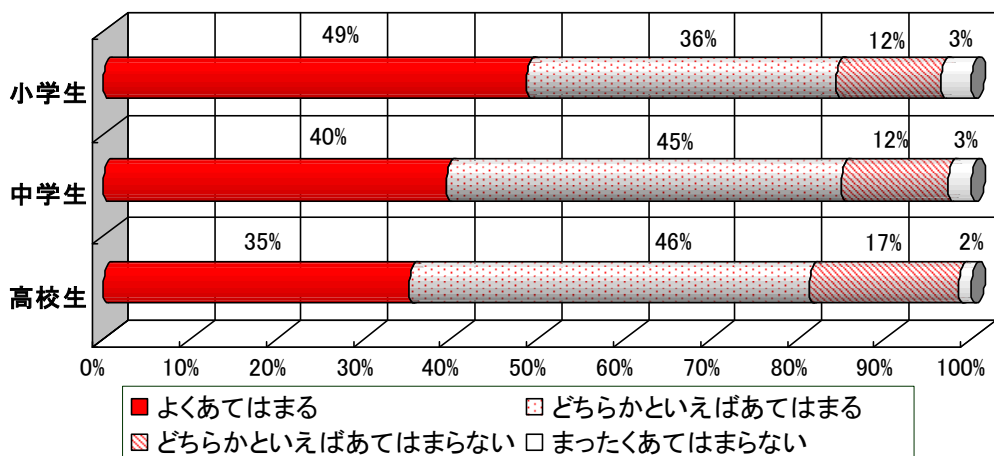
(6) 今がんばっていることがある



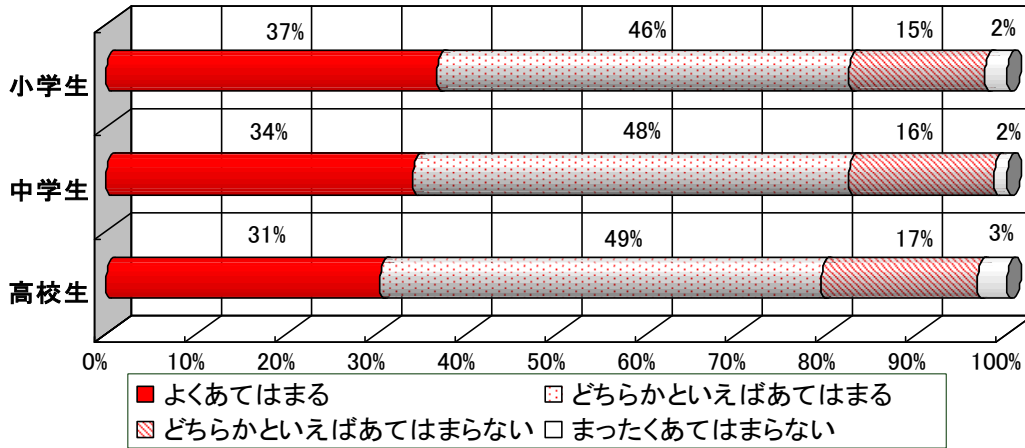
(7) 時間を守ることができる



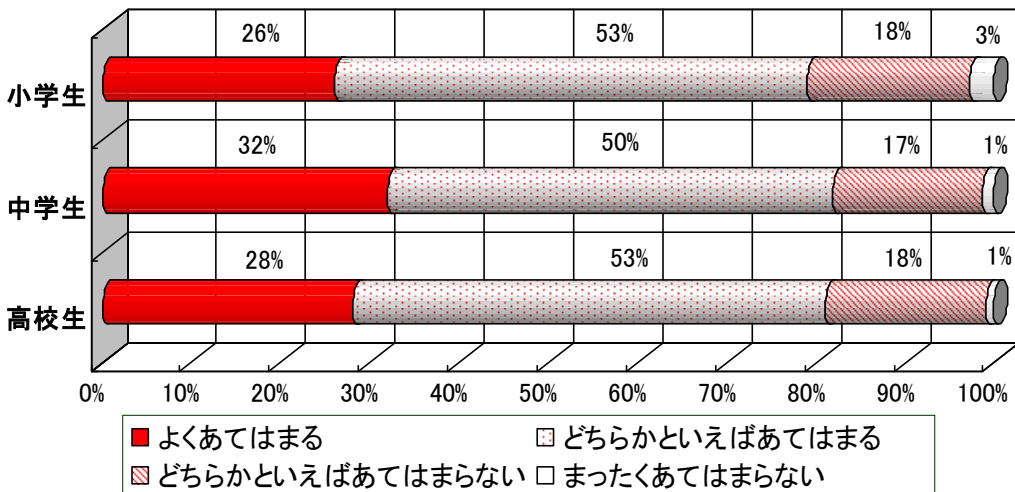
(8) バスや電車でお年寄りや身体の不自由な人に席をゆずることができる



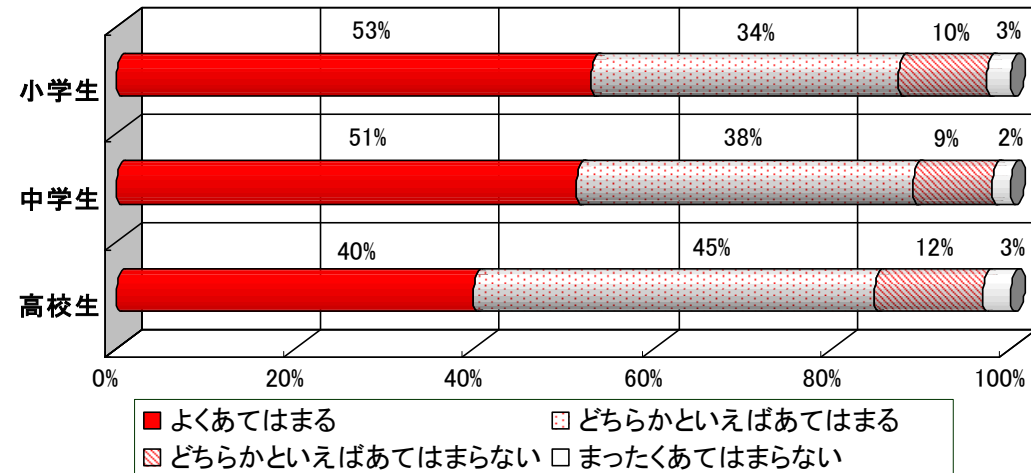
(9) 部屋の掃除や持ち物の管理など自分のことは自分でできる



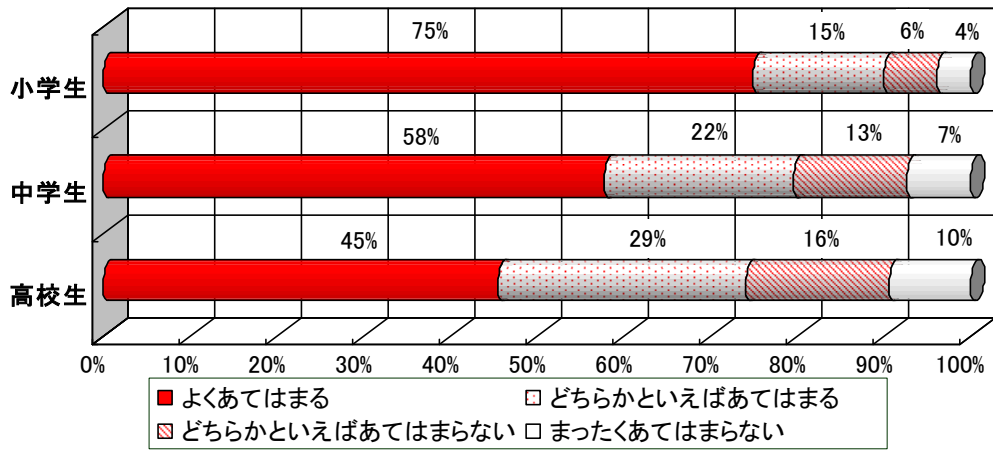
(10) 物事に関して深く考えることができる



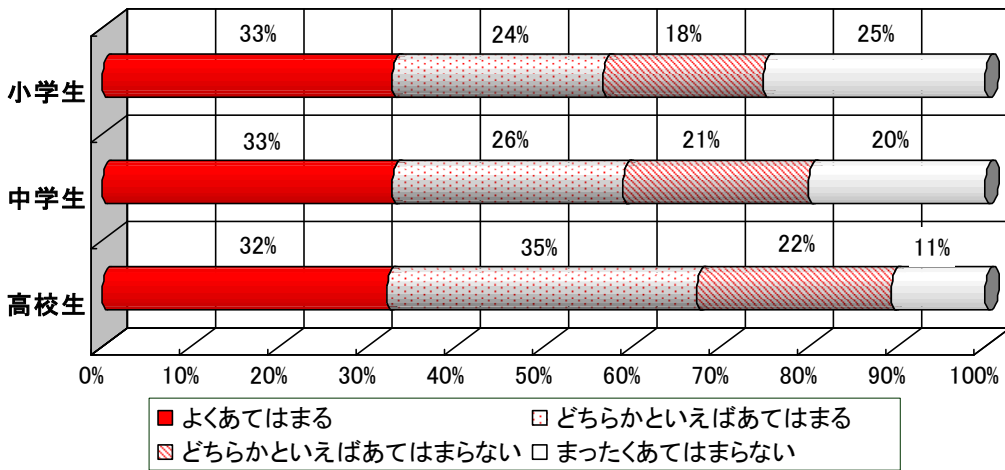
(11) 社会に役立つようなことをしたい



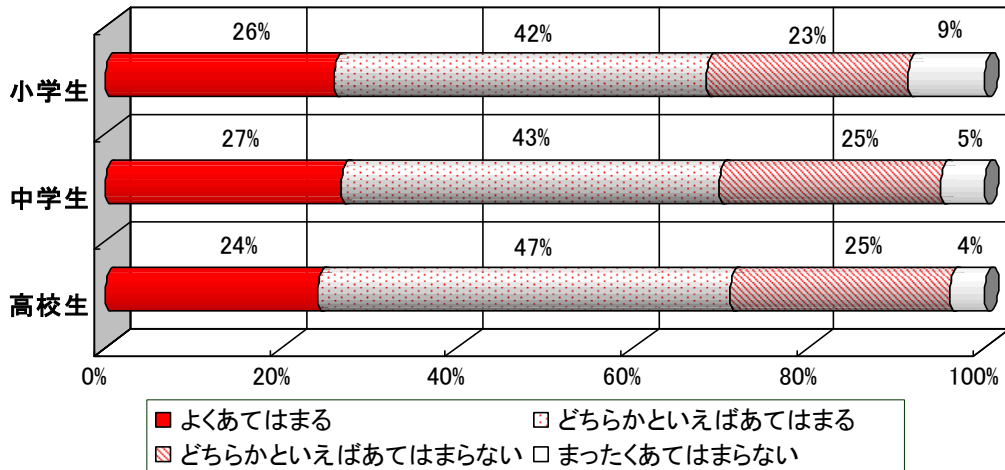
(12) 将来の夢を持っている



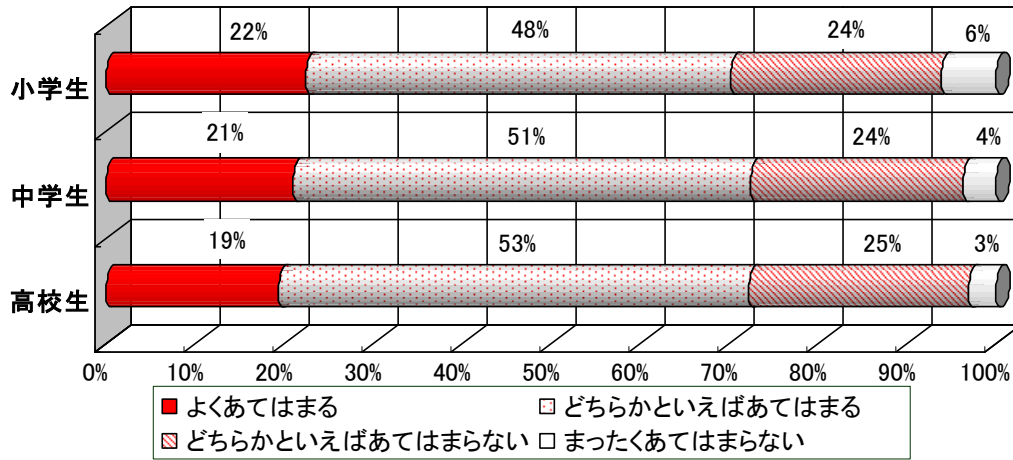
(13) 悩みがある



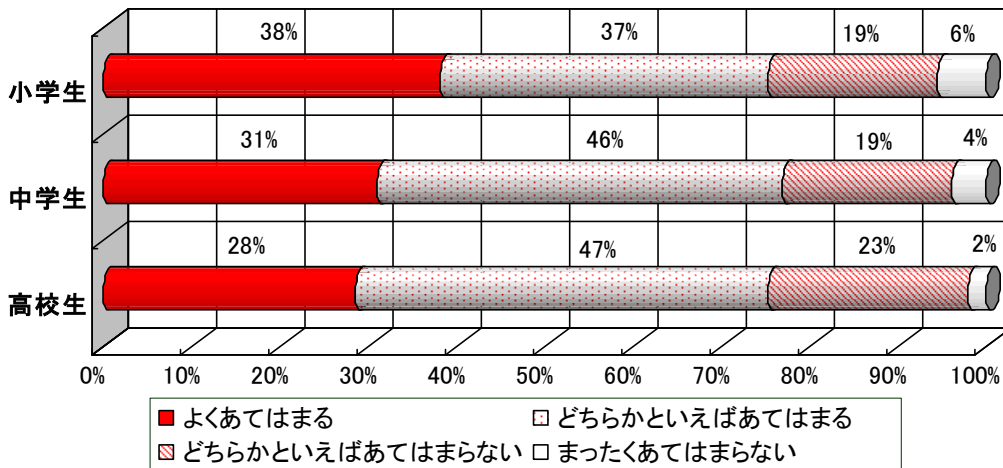
(14) 我慢強い



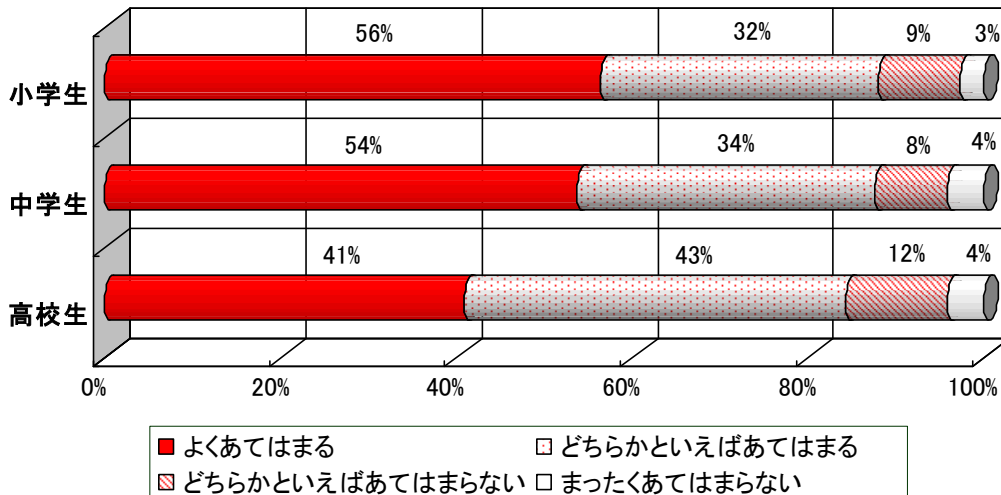
(15) 他人から言われなくても手伝いや片付けなどができる



(16) 自分たちはもっと大人（社会）に主張すべきだと思う



(17) 毎日が楽しい



全体的には、まじめな富士宮市の子ども・若者の姿が浮かび上がりました。『富士宮市が好きだが、今の社会には問題があると感じている。友人や家族を大切に考えている。社会に役立つようなことをしたいと考えている。「順番、ルール、時間を守る」「あいさつをする」などの規範意識は高い。半数以上が悩みを持っている。地域への参加は小中学生は高いが、高校生は低い。将来の夢を持ち、頑張っている。仕事は正規社員を望み、給料が少なくても仕事は自分にあった仕事をやるべきだと思っている。』という青少年像が示されています。

4 子ども・若者を取り巻く環境の変化

(1) 家庭の現状

近年は、景気が低迷し、雇用問題が深刻化する中、フリーターやニートとなる若者が増えています。希望の会社に就職したとしても、イメージと違う仕事を任せられ、我慢ができず、また、人間関係がうまくいかずに早期退社をしてしまい、その場しのぎの生活をするようになります。再就職を希望しても条件が悪かったり、希望していない職種であったりすることで、就職しない、就職できないという悪循環に陥ってしまう人も多いようです。このような現状の中、子育て世代においては所得格差が拡大し、子どもに十分な教育を受けさせることができない親が増えているといわれています。さらには、親世代の格差が子ども世代まで受け継がれるという「世代をまたがった格差の固定化」「負の連鎖」につながる可能性があることもいわれています。

一方、核家族化や少子化が進む中、わが子の教育に大きな関心を持っている保護者も増加し、一人の子どもを溺愛するために、必要以上のお金を子どもに費やす人も多くなっています。また、裕福な家庭でも親自身の生活を優先させ、子育てとのバランスを上手く取れない保護者もいます。さらには、子どもを無責任に放任したり、大人の感情をぶつけた虐待をしたりする保護者も見られるなど、家庭の教育力の低下が指摘されています。

(2) 地域社会の現状

核家族の増加などの家族形態の変化や都市化の進行に伴い、地域の教育力の低下が指摘されています。その中の一つとして子ども会などでは、役員を引き受ける大人がいなくなり、会自体が存続不能になっているのが現状です。また、地域活動への参加も同様で、清掃活動や防災活動、お祭り、地区の会合等がありますが、積極的に地域へ関わるというよりも、仕方なく役割をこなす姿勢が見られます。そのため、子どもたちも積極的な行事

参加が少なくなっているようです。ただ、地域によっては学校側が地域活動への参加を奨励し義務づけるところもあり、小中学校の児童生徒の行事参加が増えている地区もあります。

最近では、学校や医療機関、近隣・知人から虐待への疑いを心配する相談も増え、相談件数が増えています。しかし、普段から近所付き合いや、行事などの集まりに参加してないため、ひきこもり、不登校などの問題を抱える家族は、近くに相談できる人もなく、悩みを解決できずにいます。気兼ねなく声を掛け合う地域住民との関係が、今後ますます重要となってきます。

(3) 情報化社会の進展

情報化の急速な進展に伴う、インターネット等の普及により子ども・若者にとってケータイやパソコンなどは、なくてはならない存在となっています。平成24年5月に実施した「富士宮市インターネット・ケータイ・携帯用ゲーム機に関するアンケート」によると、自分専用のケータイの所有状況は、小学6年生21.8%、中学校2年生38.4%、高校2年生96.3%となっています。ケータイが子どもたちにも普及し、最近ではスマートフォンも普及してきています。(富士宮市内高校生に関してのスマートフォン所有率25.5%)そしてメールも、小学校6年生68%、中学校2年生91%、高校2年生95%使っており

、電話で会話することよりも、文字によって気持ちを伝える姿が見られます。インターネットの利用時間も1時間未満が35%~41%までと多く、中高生は2時間以上が12%を超えています。

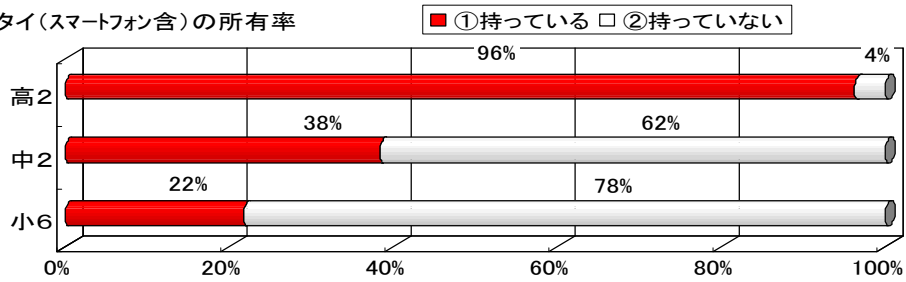
また、インターネットの利用内容は、調べ物が7割近く、高校2年生ではブログが22.8%、プロフが13.8%、掲示板が11.6%と青少年のトラブルの原因となり得る項目がかなりの割合を占めています。

ケータイ、インターネットが普及し、子どもたちが巻き込まれてしまう犯罪やトラブル、また、子どもたちが加害者になってしまうなど、ケータイやインターネットに絡む事件が後を絶ちません。そのため、フィルタリング設定、家族での利用に関するルール作りの啓発や県の条例改正などの対策がとられてきました。しかし、インターネットにつながる携帯用ゲーム機や進化したケータイ、スマートフォンの普及など、年々子どもたちが有害情報やインターネットからの危険に触れる機会が多くなってきているのが現状です。

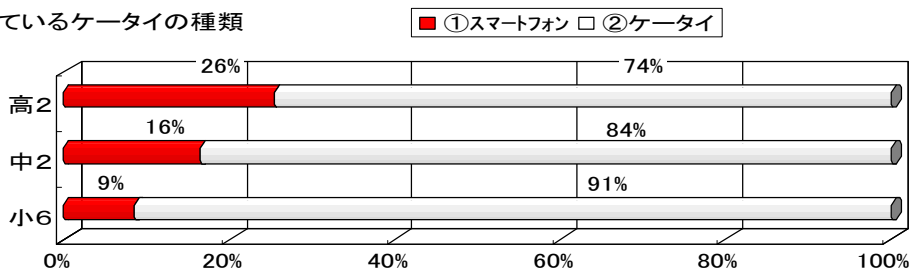
今後も、パソコン、ケータイ、ゲーム機等のインターネット端末の利用の仕方、そのような機器の危険性、犯罪やトラブルの現状について、子どもも大人も学び、対策を考え話し合う機会をつくっていく必要があります。

【平成24年富士宮市インターネット・ケータイ・携帯用ゲーム機に関するアンケート】より

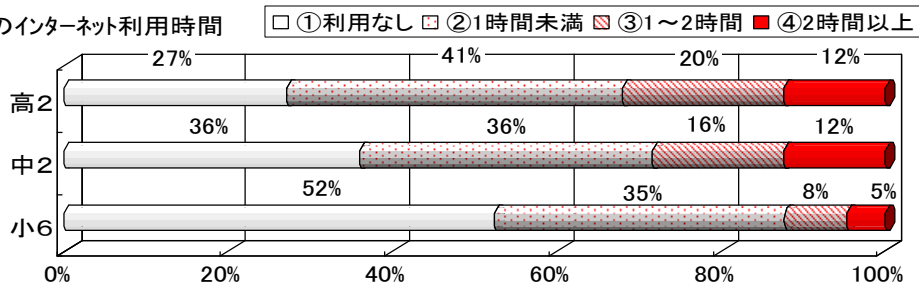
ケータイ(スマートフォン含)の所有率



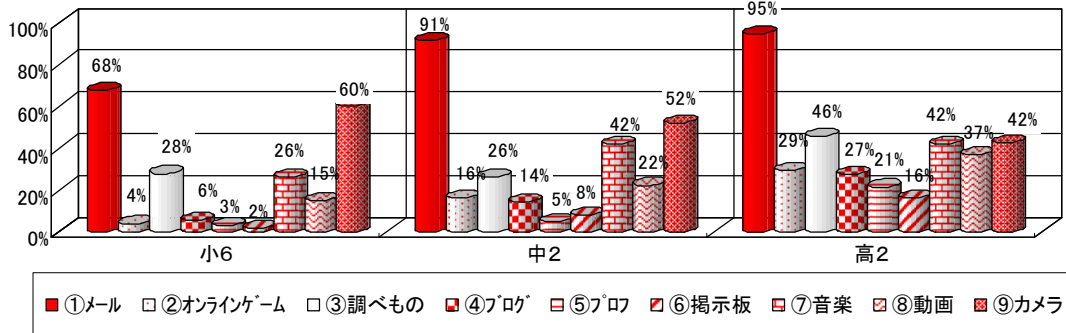
持っているケータイの種類



家でのインターネット利用時間



ケータイの通話以外の利用内容 ※複数回答



インターネットの利用内容 ※複数回答

